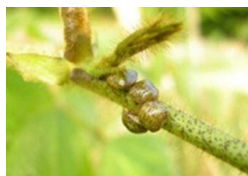


クズが好き、嫌い

1. オジロアシナガゾウムシとマルカメムシ

昆虫には特定の植物と密接に繋がっているものがあります。その中の一つを見てみましょう。クズが盛んにつるを伸ばしているこの時期、クズのつるにすぐ目につくのがオジロアシナガゾウムシです。茶色のつるに白いものが付いているため目立ちます。パンダ模様という人もいます。鳥の糞に擬態していると考えられています。交尾しているものもありますが、アシナガの名のと通りの長い前脚でつるをしっかりと抱いて動きません。しかし、触ると脚を縮めて落下し、擬死に入りますので探すことは不可能です。クズのつるに産卵し、成虫もクズの葉や茎を食べますので、全てクズに依存した虫ということです。



マルカメムシの集団



マルカメムシ

同じ時期、目立たない姿でクズのつるに群がっているのがマルカメムシです。体長5mmくらい、おたふく饅頭のような四角形のずんぐりした体型でカメムシらしくありません。しかし、触って匂いを出させるとカメムシだと実感できます。

カメムシの属する半翅目と呼ばれる昆虫は、すべて吸汁性です。セミのように植物から吸うものとアメンボのように動物の体液を吸うものがあります。カメムシの仲間にはこの両方いるのですが、マルカメムシはマメ科植物の汁が好物です。今見る成虫は産卵中の個体で、夏にはクズの汁で育った次代の成虫が現れ、そのまま越冬します。



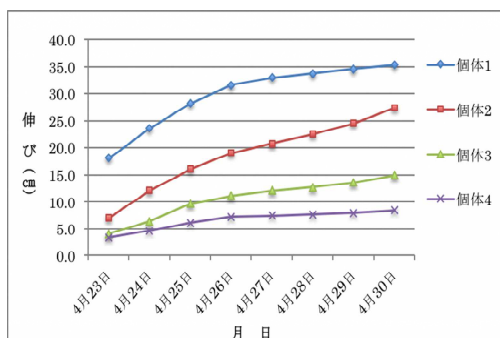
オジロアシナガゾウムシ



幼虫の生息痕

2. クズのつる

他の植物より少し遅めの4月下旬に地下茎から芽を伸ばし始めたクズは、今、すごい勢いで伸長しています。蓄えていた栄養を使い、周囲の植物に巻きつきながら、つるとともに大きな葉を展開して光を奪いつつ上へ上へと向かいます。他の植物の陰になっている時期は蓄えた栄養を使い、上に出ると盛んな光合成



新芽の毛

で一気に十数mも伸びるものもあります。目に見えて伸びますので、1本を測定してみるとグラフのような結果となりました。



クズの新芽

シイやタブノキの高木が茂っている場所では少ないのですが、林縁では高木の上にもまでつるを伸ばして枯らしてしまいます。大きくなると地上茎が枯れずに残り、いきなり樹冠を覆ってしまいます。そのため植林の大敵となっています。この成長力を利用しようと、道路等の法面保護のために日本からクズの種子を輸入したアメリカでは樹木の被害が出ています。

茎にも葉にも長い茶色の毛がたくさん生えています。昆虫などからの食被害を防ぐためと思われそうですが、毒性を持たないため食べられています。新芽を天ぷらにするとでんぷん質を感じる食味で毛は気になりません。

植物繊維が発達するため、昔はロープの代わりに結束に利用しましたが、劣化が早くつる細工にはむかない植物です。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2020)